

経済指標

1. 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆ 日本経済（内閣府「月例経済報告」[2021年11月]）◆

景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられる

個人消費

※（ ）内は、2021年8月以降の判断変化

※9月に下方修正

- ・一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる（9月に下方修正も、11月に上方修正）

企業活動

- ・生産は、持ち直しに足踏みがみられる（9月、11月に下方修正）
- ・企業収益は、感染症の影響が残る中で、非製造業の一部に弱さがみられるものの、持ち直している（8月に上方修正）
- ・業況判断は、一部に厳しさが残るものの、持ち直しの動きがみられる（変更なし）

◆ 和歌山県経済 ◆

コロナ禍の影響が残る中で
和歌山県経済は個人消費・企業活動ともに一部で弱さが見られる

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額（10月）は、5か月連続で前年を下回った
- ・新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、新車供給不足で大幅減
- ・新設住宅着工戸数は、「持家」、「貸家」を中心に持ち直しの動きが見られる

企業活動

- ・鉱工業生産指数（季節調整値、9月）は、2か月連続で下降し、低い水準
- ・TDB 景気 DI（10月）は、横ばい

◆ 大阪府経済 ◆

コロナ禍の影響が残る中で
大阪府経済は個人消費・企業活動ともに持ち直しの動きが見られる

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額（10月）は、3か月ぶりに前年を上回った
- ・新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、新車供給不足で大幅減
- ・新設住宅着工戸数（1～10月累計）は、前年同期比6.9%増

企業活動

- ・鉱工業生産指数（季節調整値、9月）は、3か月ぶりに100の水準を上回った
- ・TDB 景気 DI（10月）は、コロナ禍前の水準を回復

経済指標

2. 経済指標で見る「和歌山県経済」

コロナ禍の影響が残る中で
和歌山県経済は個人消費・企業活動ともに一部で弱さが見られる

和歌山県に関する経済指標の概況（10月指標を中心に）

＜個人消費＞

- 百貨店・スーパー販売額（10月）は、5か月連続で前年を下回った。
- 新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、新車供給不足で大幅減。
- 新設住宅着工戸数は、「持家」、「貸家」を中心に持ち直しの動きが見られる。

＜企業活動＞

- 鉱工業生産指数（季節調整値、9月）は、2か月連続で下降し、低い水準。
- 公共工事請負金額（4～10月累計）は、前年同期比2.7%減。
- TDB景気DI（10月）は、横ばい。

＜その他＞

- 消費者物価指数（和歌山市、10月）は、コアコアCPIが下降傾向。
- 有効求人倍率（10月）は、2か月連続で上昇。
- 家計消費支出（除く住居等、9月）は、4か月連続で前年を下回った。

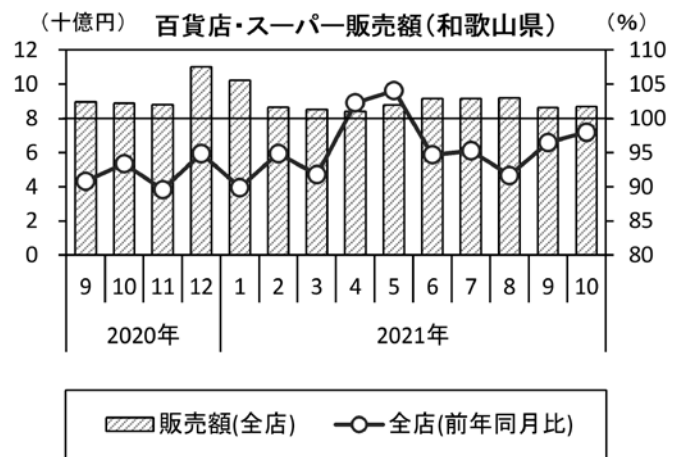
和歌山県の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2020年				2021年									
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
個人消費	百貨店・スーパー販売額	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	●	●	●
	新車販売台数(登録車、軽自動車〔乗用〕含む)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●
	新設住宅着工戸数	○	●	●	○	○	●	●	●	○	○	○	○	●	○
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	●	○	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	○	●	○	○	○	●	●	●	○	○	●	●	
	公共工事請負金額	○	●	●	○	●	○	○	○	○	●	●	●	○	●
	TDB景気DI ※前月比	○	○	○	○	●	●	○	●	○	○	○	○	●	-
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	○	●	-	●	○	-	-	●	●	-	○	●	●	●
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

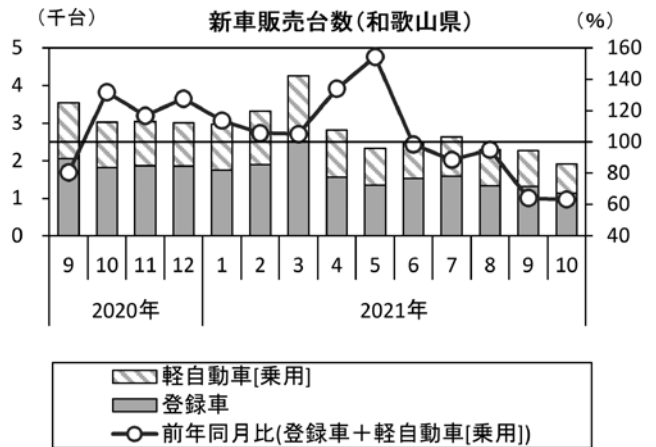
百貨店・スーパー販売額（10月）は、前年比2.0%減となり、5か月連続で前年を下回った。ただし、9月30日に東京都など19都道府県に出されていた新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が解除され、人出状況は改善している。近鉄百貨店和歌山店の販売額は前年比0.5%減と減少幅は縮小した。スーパー販売額は前年を下回っているものの、ドラッグストア、コンビニエンスストア、家電量販店の販売額は前年を上回るなど、個人消費には持ち直しの動きが見られた。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

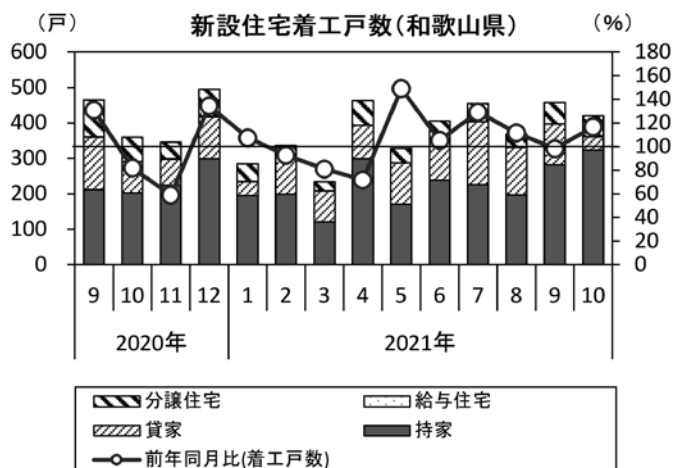
新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、前年比36.8%減となり、9月に続いて大幅な減少となった。世界的な半導体不足、部品不足に伴う新車の供給不足が続いており、登録車・軽自動車ともに販売台数が大きく減少している。車種別では、軽自動車（乗用）の販売台数が前年比34.7%減、登録車は同38.2%減となった。部品不足の影響は緩和されているものの、供給不足は11月以降も継続する見込みで、県内新車販売台数は減少傾向が続く模様。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

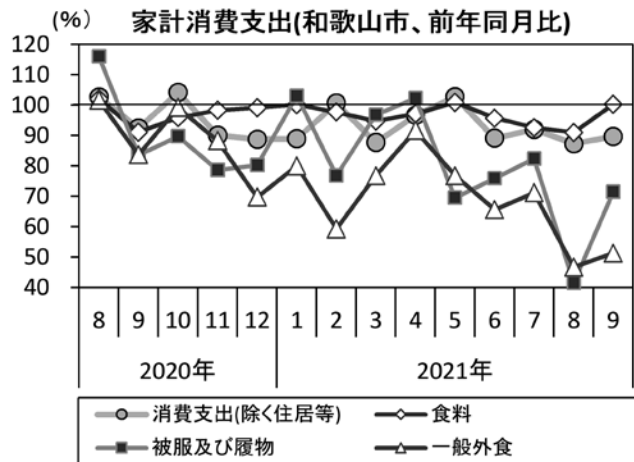
新設住宅着工戸数（10月）は、前年比16.7%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。県内において緊急事態宣言が発令された2020年4月以降、大幅な減少が続いていた着工戸数だが、「持家」、「貸家」を中心に持ち直しの動きが見られる。21年1月～10月累計での着工戸数は前年同期比2.1%増となっている。地域別では、御坊市（同45.1%増）、橋本市（同39.3%増）、田辺市（同18.8%増）、紀の川市（同17.5%増）で増加している。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、9月）は、前年比10.3%減となり、4か月連続で前年を下回った。8月に比べて、減少幅はやや縮小したものの、コロナ禍による外出自粛の影響が続き、「一般外食」、「被服及び履物」への支出額が大幅に減少している。ただし、9月以降、新型コロナウイルスの新規感染者数は急激に減少しており、人出状況も改善していることから、10月の家計消費支出額は増加することが予想される。

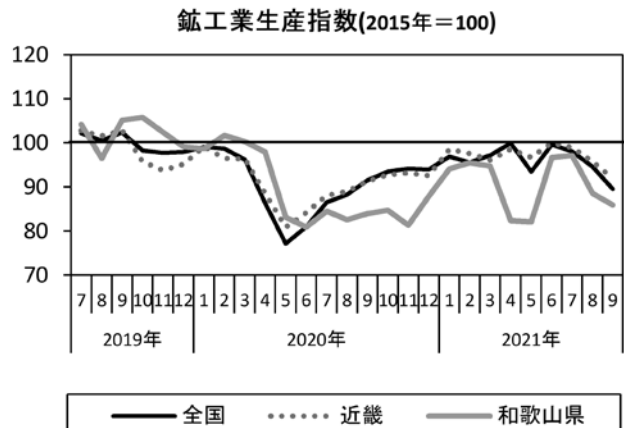


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

※調査対象の世帯が約90と少ない点に留意

鉱工業生産指数

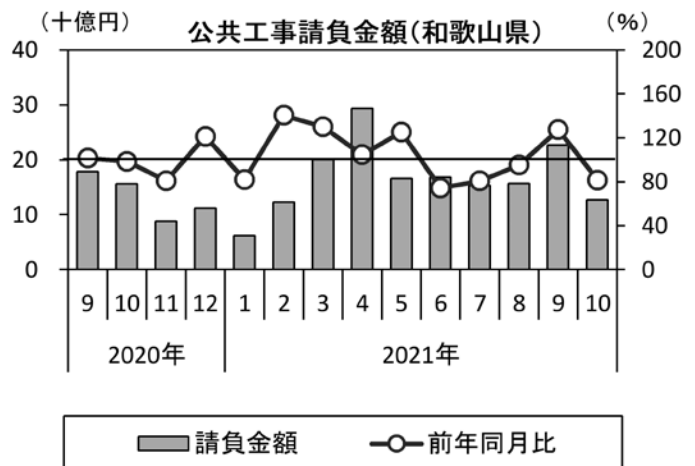
鉱工業生産指数（9月）は、前月比2.7ポイントの下降となった。下降は2か月連続で、生産指数は再び低い水準となっている。下降要因としては、生産指数の上下動が激しい金属製品工業、石油・石炭製品工業における指数の下降が挙げられる。また、県内主要業種である鉄鋼業、汎用機械工業、化学工業で持ち直しの動きに一服感が見られる。先行きについては、世界的に製造業における供給制約（原材料・部品・人手の不足）が問題となっており、この影響に注意を要する。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（10月）は、前年比18.5%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。2021年4月～10月累計での請負金額は前年同期比2.7%減となっている。前年に比べて阪和自動車道・湯浅御坊道の4車線化に係る大型工事が減少した。ただし、国・県・市町村発注の工事が増加しており、串本地区、新宮地区、田辺地区では請負金額が増加している。



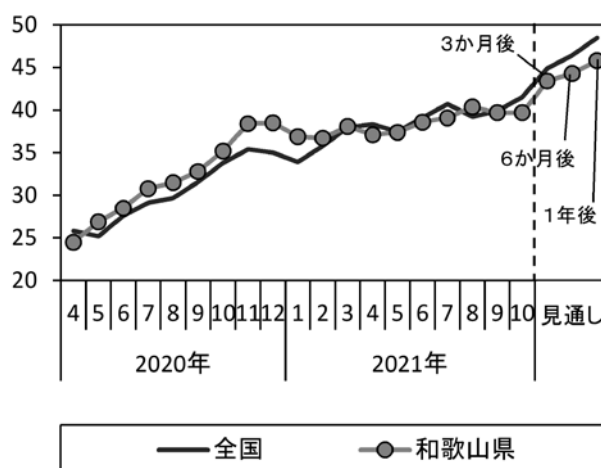
(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB 景気 DI は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

10月の景気 DI は前月から横ばい。新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られる中で、非製造業の景気 DI が上昇したが、供給制約や仕入価格の上昇もあり、製造業で景気 DI が下降した。

TDB景気DI (判断の分れ目は50)

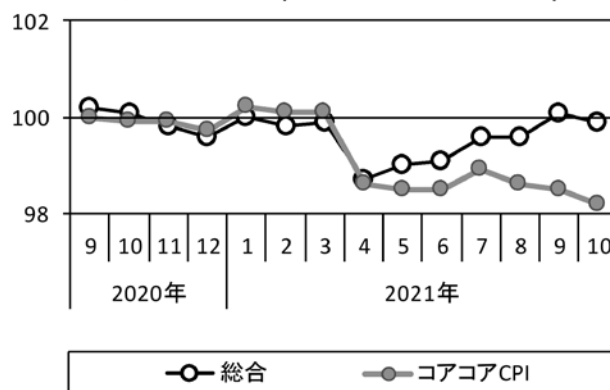


(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数 (和歌山市、10月) は、2020年基準への改定の結果、携帯電話の新材料プラン (3月提供開始) の影響が強まり、通信価格が大幅に下落した。そのため、エネルギー価格は上昇傾向にあるものの、総合、コアコアCPIともに前年を下回る水準で推移している。今後の物価見通しに関しては、世界的な経済活動正常化で、資源価格が高騰しており、エネルギー価格の上昇が予想される。

消費者物価指数(和歌山市、2020年=100)

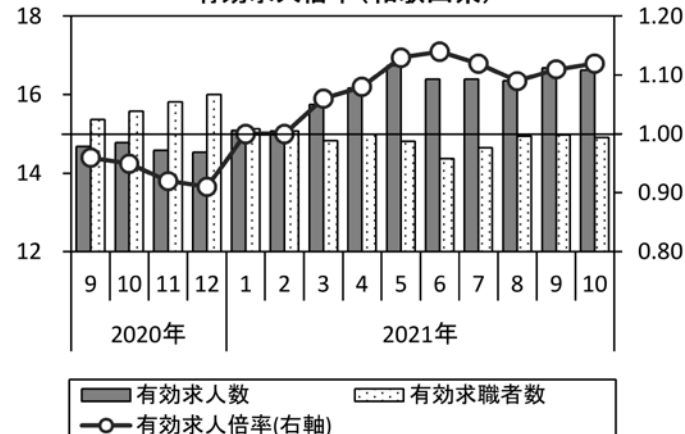


(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率 (10月) は、前月から 0.01 ポイント上昇し、1.12 倍。倍率の上昇は 2 か月連続。前月に比べて有効求人数は減少したものの、有効求職者も減少している。新規求人数については、コロナ禍前の 2019 年 10 月とほぼ同水準にまで回復している。建設業、製造業、運輸業、医療・福祉など幅広い業種で新規求人数が前年を上回った。

有効求人倍率(和歌山県)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

経済指標

3. 経済指標で見る「大阪府経済」

コロナ禍の影響が残る中で
大阪府経済は個人消費・企業活動ともに持ち直しの動きが見られる

大阪府に関する経済指標の概況（10月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（10月）は、3か月ぶりに前年を上回った。
- 新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、新車供給不足で大幅減。
- 新設住宅着工戸数（1～10月累計）は、前年同期比6.9%増。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値、9月）は、3か月ぶりに100の水準を上回った。
- 公共工事請負金額（4～10月累計）は、前年同期比15.9%増。
- TDB景気DI（10月）は、コロナ禍前の水準を回復。

《その他》

- 消費者物価指数（大阪市、10月）は、コアコアCPIが下降傾向。
- 有効求人倍率（10月）は、全国が上昇する中で、横ばい傾向。
- 家計消費支出（除く住居等、9月）は、3か月ぶりに前年を上回った。

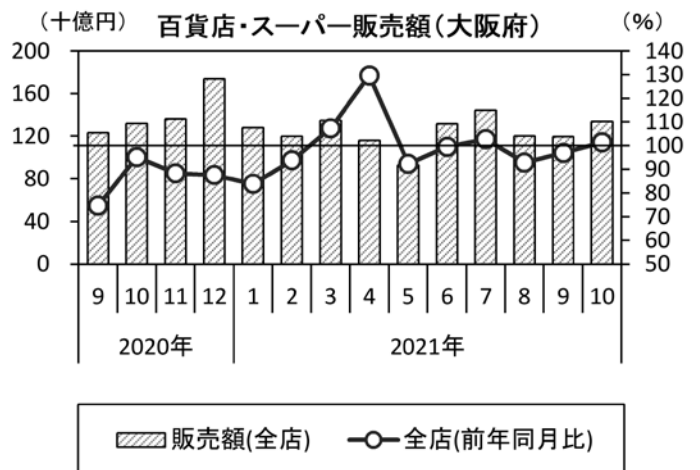
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2020年				2021年									
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
個人消費	百貨店・スーパー販売額	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	○	●	●	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車〔乗用〕含む)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
	新設住宅着工戸数	○	●	●	●	●	●	○	○	○	●	○	○	○	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯、大阪市)	●	○	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●	○	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	○	●	-	○	-	○	○	●	○	●	●	○	
	公共工事請負金額	○	●	●	○	●	○	●	○	○	○	●	○	●	-
	TDB景気DI ※前月比	○	○	○	○	●	○	○	●	●	○	○	●	○	○
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	●	○	-	-	○	○	-	●	○	●	○	-	●	●
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

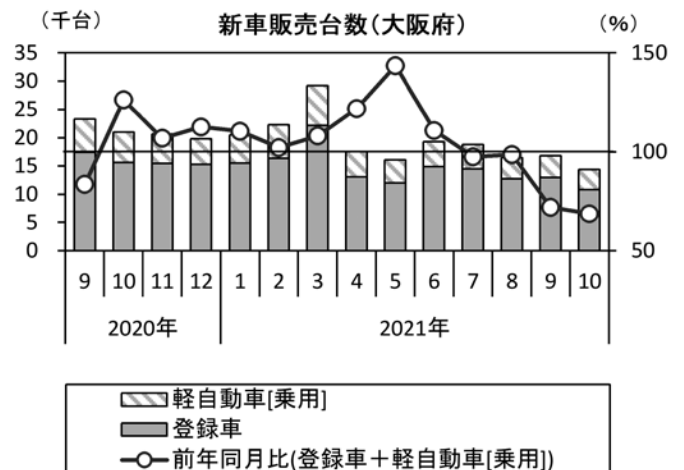
百貨店・スーパー販売額（10月）は、前年比1.4%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。7月末以降、百貨店で新型コロナ感染が発生し、臨時休業や来店者数の制限措置がとられた。ただし、9月30日には、コロナ禍に係る緊急事態宣言が解除されたことで、来店客は増加した。先行きについても、新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られることから、百貨店を中心に販売額は増加することが予想される。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

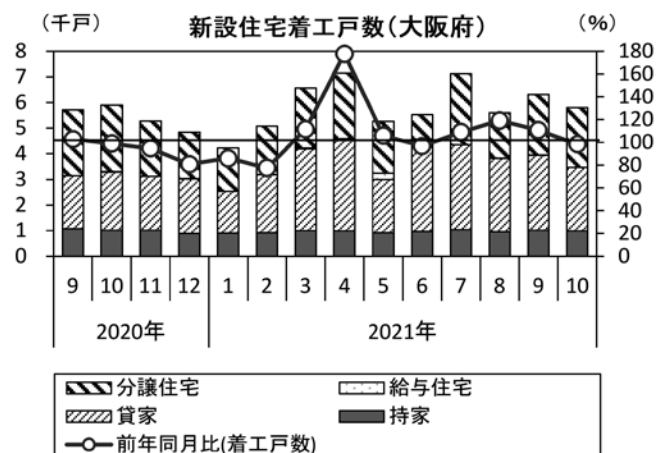
新車販売台数（軽自動車〔乗用〕含む、10月）は、前年比31.2%減となり、4か月連続で前年を下回った。世界的な半導体不足、部品不足に伴う新車の供給不足が続いており、登録車・軽自動車ともに販売台数が大きく減少している。車種別では、軽自動車（乗用）の販売台数が前年比32.9%減、登録車は同30.6%減となった。部品不足の影響は緩和されているものの、供給不足は11月以降も継続する見込みで、府内新車販売台数は減少傾向が続く模様。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

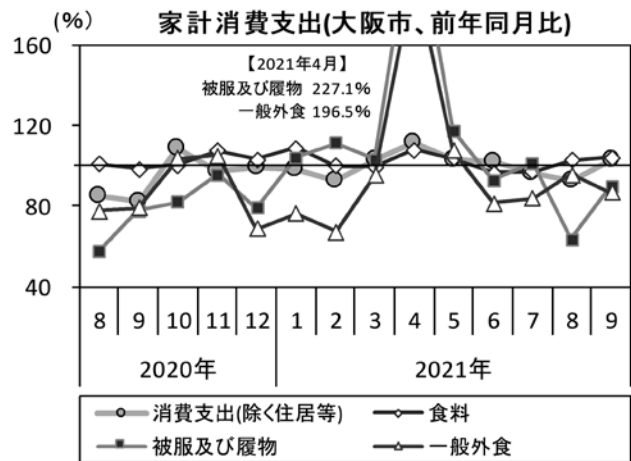
新設住宅着工戸数（10月）は、前年比1.5%減となっており、4か月ぶりに前年を下回った。ただし、1～10月累計での着工戸数は、前年同期比6.9%増となっている。2020年4月に最初の緊急事態宣言が発令されて以降、着工戸数は大幅に減少していたが、「持家」、「貸家」を中心に持ち直しの動きが見られる。先行きについては、輸入木材の不足に伴う木材価格の高騰の影響に注意を要する。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、9月）は、前年比2.8%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。コロナ禍に係る緊急事態宣言が発出されていたこともあり、「被服及び履物」、「一般外食」の支出額は減少しているものの、家庭内調理需要は底堅く、肉類、魚介類、生鮮野菜等の購入は増加した。先行きについては、9月30日に緊急事態宣言が解除されたことで、人出状況は改善しており、10月の家計消費支出額については、持ち直しが予想される。

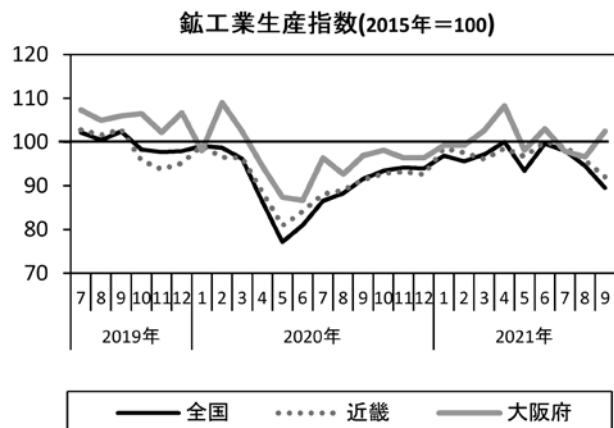


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（9月）は、前月から5.9ポイント上昇し、3か月ぶりに100の水準を上回った。世界的な半導体不足などから輸送機械工業の生産指数が低迷する一方で、ショベル系掘削機械・超硬工具等の生産用機械工業、医薬品等の化学工業などで生産指数は高水準にある。

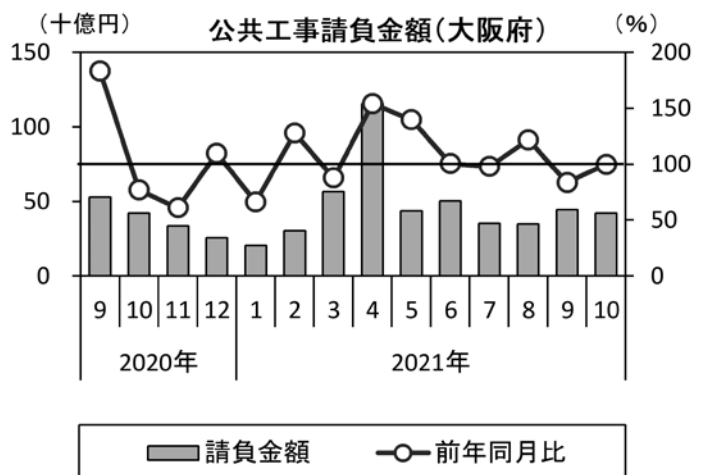
ただし、府内製造業の主な輸出先であるアジアへの輸出量（10月）が6か月連続で減少しており、今後の動向に注意を要する。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（10月）は、関西国際空港滑走路のかさ上げ工事などの大型工事があり、前年をわずかに上回った（前年比0.0%増）。4～10月累計の請負金額は前年同期比15.9%増と大幅に増加している。中国自動車道の橋梁更新工事、大阪市内の高規格道路工事、府市町村発注の新規施設建設工事など、大型工事が多数見られた。



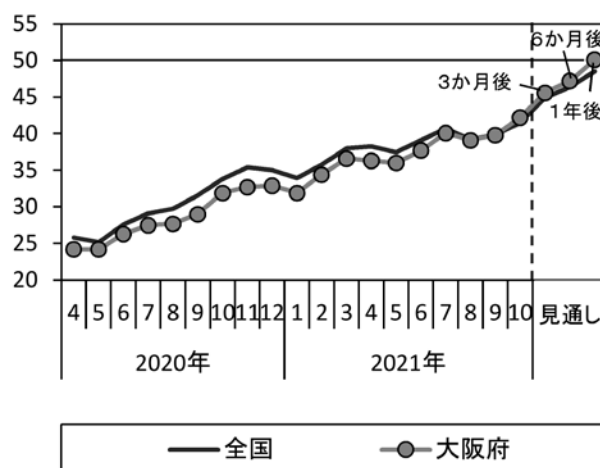
(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB 景気 DI は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が 50 を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

10月の景気DIは前月から2.4ポイント上昇。上昇は2か月連続で、コロナ禍前(2019年12月)の40.7を上回った。9月30日にコロナ禍に係る緊急事態宣言が解除されたことで、小売業、運輸業、サービス業、製造業など幅広い業種で景気DIが大きく上昇した。この結果を受けて、帝国データバンクは「当面は落ち込んだ消費回復への期待が大きく、景況感は改善基調で推移する」としている。

TDB景気DI(判断の分れ目は50)

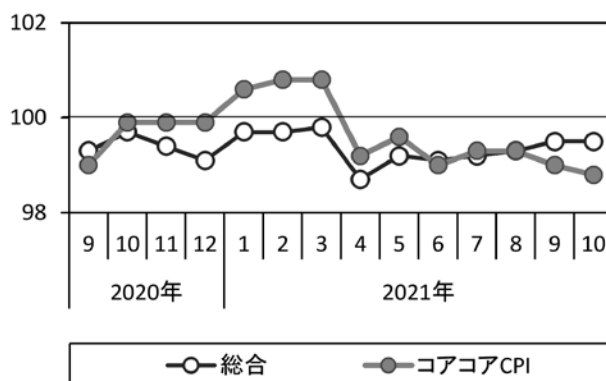


(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数(大阪市、10月)は、2020年基準への改定の結果、携帯電話の新料金プラン(3月提供開始)の影響が強まり、通信価格が大幅に下落した。そのため、エネルギー価格は上昇傾向にあるものの、総合は前年並み、コアコアCPIは前年を下回る水準で推移している。今後の物価見通しに関しては、世界的な経済活動正常化で、資源価格が高騰しており、エネルギー価格の上昇が予想される。

消費者物価指数(大阪市、2020年=100)

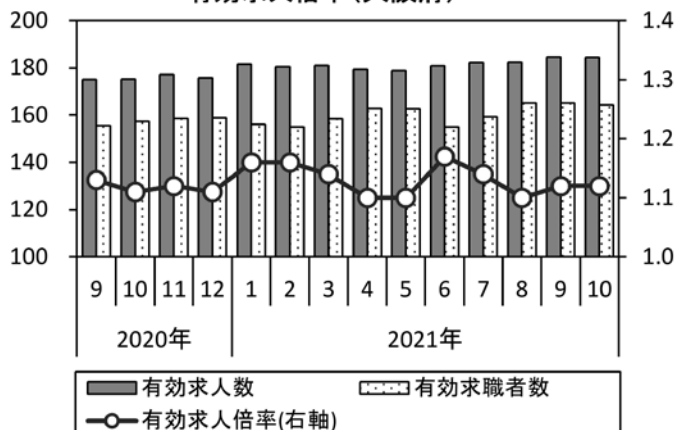


(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率(10月)は、前月から横ばいの1.12倍となっている。新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られる一方で、新規求人数(10月)は前月から減少しており、その水準もコロナ禍前(2019年10月)に比べて27.6%減と低い。有効求職者数も高止まりしており、全国に比べて雇用環境の改善に弱さが見られる。

(千人) 有効求人倍率(大阪府)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」